

達人 Professional

Contents

- 卷頭言 有事に遭遇しても
びくともしない法人を目指す
- 特集2021年度事業計画・抱負
- 第72期新卒新入職員紹介
- 慈愛会学会学術集会告知
- 慈愛会フィロソフィ
- 在宅医療リレーエッセー
- 慈愛会の達人たち/人事情報



感染症対応さらに進化

今村総合病院感染症内科

2021年3月新設

▶記事は P17 へ

公益財団法人 慈愛会 理念

医療の原点は、慈愛にあり。

母が子を慈しみ育てる心、愛を持って病める人の苦しみを除く。

慈しみ、愛する心、その素朴で純粹な気持ちが慈愛会の医療理念です。

患者様を肉親と思い医療の達人(プロフェッショナル)を目指します。

同時に全職員の物心両面の幸せを追求します。

公益財団法人 慈愛会 施設一覧

鹿児島市を中心とした鹿児島二次医療圏 (推計人口 約68万人)



今村総合病院 428床
急性期一般病床 330床
回復期リハ病床 50床
精神病床 48床



いづろ今村病院 115床
急性期一般病床 42床
地域包括ケア病床 53床
緩和ケア病床 20床

総病床数 1,589床

職員数 2,482名
(2021年3月1日現在)



慈愛会クリニック



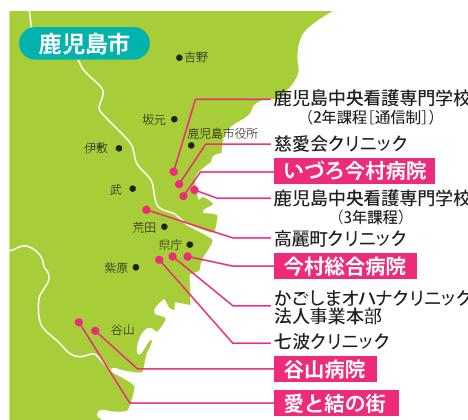
高麗町クリニック



七波クリニック



かごしまオハナクリニック



鹿児島中央看護専門学校

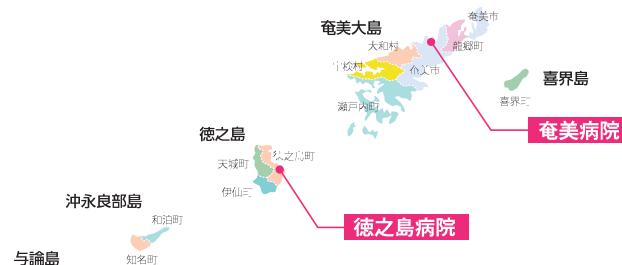


介護老人保健施設 愛と結の街
(入所定員 100床)



谷山病院
(精神病床 392床)

奄美二次医療圏 (推計人口 約11万人)



奄美病院
(精神病床 348床)



徳之島病院
(精神病床 206床)

有事に遭遇しても びくともしない法人を目指す

公益財団法人 慈愛会 理事長 今村 英仁



令和3年度の法人事業計画の目標を、新型コロナ禍の経験を踏まえて「有事に遭遇してもびくともしない法人を目指す」としました。

また今年度はテーマに「統合」を掲げた第2次中長期5カ年計画の最終年度にあたります。この「統合」は新型コロナ禍の社会では益々その必要性が高くなり、さらに、進化・深化させることが求められます。このことを踏まえて「統合」を進めつつ、令和4年度から始める第3次中長期計画の作成に取りかかります。

さて前年度は新型コロナ禍に振り回された一年となりました。特に年度当初はその影響が大きく先行き不透明な時期もありましたが、各事業所が新型コロナ禍に正面から取り組んで事業に臨んでくれたお陰で最終的にこの災禍を乗り越えて事業を終えることが出来ました。ここで学んだ教訓は、いかなる有事に対しても逃げることなく直ちに、正面から真摯に取り組むことでその有事を克服することが出来るという事です。10年前の東日本大震災の大惨事を目の当たりにしてその後企業にBCP(事業継続計画)の考え方方が浸透してきました。当法人においても様々な想定外の有事に遭遇しても思考停止に陥らないためにBCPの考え方を取り入れて準備を始めました。今回の新型コロナ禍では慈愛会スタッフがBCPの考え方がある程度理解してくれていたからこそ即座に対策に取り組むことが出来たと同時に、スタッフ全員が対策を遂行してくれたからこそこの災禍を乗り越えることが出来たと考えています。今回の体験を検証したうえでBCPのバージョンアップを図り次の有事に備える必要があります。

また、今回当法人は対外的にも当法人の総合力を発揮することが出来ました。この総合力は、1)一般診療科と精神科の両輪が揃っていること、2)救急・急性期医療から在宅医療・介護・福祉まで広範囲なサービスを提供していることで可能になったと考えます。地域の医療機関とも連携してこれらの様々なサービスを提供できる基盤を築いてきたからこそ、この有事の際にご利用者の求めるサービスを提供出来たのです。さらに、新型コロナ禍の環境では、患者さん・ご利用者の自宅での療養生活まで気配りをすることが必要なことがはっきりしました。この「生活支援」の取り組みでは地域の医療機関に加えて、地域の皆さんとの連携も欠かせません。益々「地域共生社会の構築」に積極的に参加することが必要です。

今年度は、これらの昨年度の経験を踏まえて「有事に遭遇してもびくともしない法人」作りを目指していきましょう。

2021年度 慈愛会 事業計画スタート

第2次マスターplan 総仕上げへ

慈愛会が鹿児島県の公益財団法人となって10周年。

公益財団法人慈愛会の経営方針を定めた「第2次中長期5カ年計画(マスターplan)」は今年が最終年度です。計画テーマ「統合 Integration—地域包括ケアシステムにおける役割の確立」の総仕上げを図る一年となります。新年度スタートにあたり、今回の誌面ではマスターplanの全体像、および法人内全施設の2021年度事業計画取り組み方針・抱負、ならびに、職能別各部門の新規/重点取組事項について、特集します。

慈愛会第2次マスターplan 計画テーマ

統合

Integration

—地域包括ケアシステムにおける役割の確立—

4つの柱

1. 病院・施設内、法人内、地域を含めた統合 (Integration) の推進 (脱病院・施設化)

- (1) チーム医療の推進、法人内一体化プロジェクトの継続
- (2) 慈愛会総合情報システム (J-TIS) を活用したデータマネジメントの強化
- (3) 地域連携による病院・診療所・介護事業所との相互関係の構築

2. 地域社会に貢献できる人材の育成

- (1) 職員の専門性の向上と有効活用
- (2) 高いソーシャルキャピタル (信頼関係・人間関係) の醸成

3. 法人運営の健全化と経営基盤の強化

- (1) 生産性の向上
- (2) 物的資源の有効活用

4. 公益目的事業の遂行

■ 5カ年計画スケジュール

区分	期間	Stage 1 2017年度	Stage 2 2018年度	Stage 3 2019年度	Stage 4 2020年度	Stage 5 2021年度
全体ステップ		基盤・体制固め			地域包括ケアシステムにおける役割の確立	
地域医療構想に基づいた専門医療の体制構築	一般	・現専門医療の機能強化及び新たな専門医療提供に向けた検討・準備、病床機能に応じた体制の確立と機能強化に向けた準備			・地域完結型医療体制への参画と役割の確立	
	障がい	・精神科救急医療体制の維持、認知症疾患に対する診断から治療・ケア体制の構築、多様な精神疾患対応に向けた取り組み			・精神科病床の編成の検討	
	在宅	・在宅診療機能拡大に向けたソフト・ハード面における体制構築			・法人内外における在宅診療に係るネットワーク構築	
医療・介護福祉・地域連携の構築	一般	・地域医療・介護事業所等の連携体制の構築、地域との関係構築に向けた継続的な取り組み			・法人内外における地域包括ケア病床を基点とした医療連携機能の定着化	
	障がい	・地域移行・退院支援にむけた在宅サービスの検討・拡充、行政・関係機関との連携強化				
	在宅	・地域医療・介護事業所等の連携体制の構築、地域との関係構築に向けた継続的な取り組み				
人材育成及び教育体制の構築	共通	・各種専門教育体制の継続、地域関係機関と相互研修、法人内人事交流体制の構築など				
共通方針		・チーム医療、内外における連携の推進 (一体化プロジェクト含む)、慈愛会総合情報システム (J-TIS) の構築・整備によるデータマネジメント体制構築				

今村総合病院

428床 職員数 1,064名

病院目標

急性期総合病院としての機能を高めるべく、救急体制の強化とともにチーム医療の促進を図る。

中長期視点にて地域医療構想を視野に入れ、大規模災害・感染症多発等の有事下においてもゆるがない経営体制を作る。

2021年度 取り組み方針・抱負

2021年度の今村総合病院の抱負

院長 帆北 修一



今村総合病院の2021年の言葉として、老子の「和光同塵」を選びました。“挫其銳 解其粉 和其光 同其塵”の後半部分です。「この世の中を生きていくには、鋭い部分はなくしたほうがいい。複雑な事ばかり考えるのもよくない。きらびやかに光るものがあつたら、意識的にそれをぼかして塵と溶け合うように生きなさい」という意味です。

2020年コロナ対策は、職員の行動自粛に始まり、発熱外来の設置等病院全体で対応していただきました。コロナ対策と同時に本来の診療を通常どおりに行つていただき、本当に感謝しております。2021年2月からワクチンの接種がはじまり、感染拡大抑制を期待しております。しかし、4月中旬時点では大都市圏において再拡大の傾向があり、しばらくの間、職員の皆さんには、日々の健康管理と行動自粛の厳守をお願いしております。

2020年は新型コロナウイルス感染症に振り回されましたら、職員の皆さんの努力で2020年度の収支は、マイナスにならずにすみそうです。国や県からの補助金もありましたが、今村総合病院の実力によるものだと思います。

100年に一度といわれる新型コロナウイルス感染症により世界が激変している時期です。今村総合病院においても、大きな転換期だと考えております。ハード面では、B・C棟の内装工事(A棟のアンギオ室はすでに機器を導入済)が始まります。ソフト面では今

村総合病院は、2021年1月に急性期の病床を15床増床いたしました。4月からは回復期リハビリテーション病棟が14床増床となり、全体で428床になりました。

循環器内科が2月から、脳神経外科・泌尿器科は4月から増員がありました。耳鼻科は、鹿児島大学からの非常勤の先生を中心とした体制となり、消化器内科も4月からは鹿児島大学からのメンバーでの新体制となり、IBDセンターもいづろ今村病院から今村総合病院に移設されました。各部門のQualityをますます高いものとし、全ての事に対してスピード感をもってかつ確実に対応していただきたいと思います。今後は、災害対策に関して、患者さん、職員、地域の皆さんとの安全確保や、感染症を含む大規模自然災害時でも経営的にも影響されない事業継続計画(BCP)をしっかりと確立していきたいと考えております。

地域との連携をしっかりと構築し、総合内科・脳卒中センターを中心に病院全体で断らない医療の提供と専門医療の提供に心がけていきたいと思います。

職員の皆さんには、一人ひとりが病院の事を意識し、プロである事を自覚する事が大事だと思います。明るく希望のある職場にするための環境を整備していきたいと思います。

「和光同塵」を心にとどめ、この1年間頑張りたいと考えておりますので宜しくお願い申し上げます。

いづろ今村病院

115床 職員数 340名

病院目標 患者さんと最期まで一緒に悩み続けてくれる病院

2021年度 取り組み方針・抱負

慢性疾患のプロフェッショナルとして 新しい考え方、やり方を開発する年に

院長 黒野 明日嗣



2020年度はコロナにより外来患者、入院患者が激減しました。その理由を考えることはイコール病院の機能を見直すこととなりました。いづろ今村病院は何を求められているのか、結論は慢性疾患のプロフェッショナルになることでした。2021年度は眞の意味で慢性疾患を最期までみられる病院を目指します。そのための目標を「患者さんと最期まで一緒に悩み続けてくれる病院」にしました。当院は慢性疾患の急性期、維持期、終末期いずれのステージでも患者、家族を支援できる病院を目指していきます。

今年度は大きく体制が変わります。まず一番大きいのが消化器内科です。これまで大井秀久先生が率いてこられたIBDチームが今村総合病院へと移転します。その一方で、今村総合病院からは時任大悟主任部長と、高崎能久先生が当院へ異動となります。胃瘻の造設入れ替えや大腸ポリープの切除などをまずは中心にしていきながら、当院らしい消化器内科を目指していただきます。次に皮膚科の新設です。当院は糖尿病内科で多くの患者を抱えており、スキンケアが必要な患者が多くいらっしゃいます。高齢者施設ではいろいろな皮膚病変に遭遇しますが、そういう高齢者の皮膚問題はステロイドでお茶を濁されている症例も多いと推察され、的確な診断と治療が提供できることは慢性疾患を長く扱う病院としても重要と考えています。川上延代先生が担当します。そして緩和ケア内科ですが、松下格司主任部長に加えて原田尚毅先生(泌尿器科医)が参加してくださることになりました。2人体制になることで、一般病床での待機も可能となりますし、緩和ケアの幅が広がります。在宅療養の支援も今まで以上に行えるようになり、終末期の過ごし方の柔軟性が高まりました。

最後に、当院は急性期病床、地域包括ケア病床、緩和ケア病床を持つ、在宅療養支援病院です。今年はハードを活かしたソフトを充実させ、慢性疾患を持つ患者家族が安心して最期を迎えるよう、新しい考え方、やり方を開発する年にしたいと思います。

指定居宅介護支援事業所 ウェルネスじあい

重点目標：医療との連携強化により、在宅療養支援病院内の居宅介護支援事業所として、ターミナル利用者の受け入れも行いながら、在宅生活の継続を図ります。

取組事項：①入退院時のカンファレンスに参加し、情報共有により、早期の在宅復帰を目指します。
②ACP (アドバンス・ケア・プランニング)に沿った看取り対応。

数値目標：登録利用者数35名
平均利用者数30件以上

通所リハビリテーション ウェルネスじあい

重点目標：利用者の自律した在宅生活の継続に向け多職種で支援する事業所となります。

取組事項：①ご利用者の要望に応じて理学・作業・言語聴覚療法といった個別リハビリテーションや他の運動プログラムを提供します。
②令和3年4月より1日当たりの定員が2名増加するため、広報活動を含め他の事業所等との連携を強化します。

数値目標：登録利用者数70名以上、
一日合計実利用者数22名以上



病院目標 精神障害にも対応した「地域包括ケアシステム」への参画

2021年度 取り組み方針・抱負

地域の中で役割を果たす谷山病院

院長 福迫 剛

谷山病院は、昨年度と同じ方針です。多様な精神疾患に対応し、精神科病院の役割をきちんと果たすことで、地域包括ケアシステムの一部を担います。具体的には、①精神科救急の地域拠点病院として役割を果たし、②結核(今年度は、COVID-19)を含む身体合併症への対応を行い、③認知症への対応は認知症疾患医療センターを中心に各方面と連携して行い、④長期入院者の地域移行・地域定着を併設施設などと連携して行い、⑤児童思春期も可能な範囲で取り組みます。また、対応できない疾患あるいは対応が不十分な疾患に関しては、他の病院や施設などと連携を取り患者さんが地域の中で生活できるよう支援を行います。災害医療への貢献の準備も昨年度同様に少しずつ進めたいと思っています。

個人的には、直腸がんも術後5年を経過し、再発なく働けていることに感謝し、これまで通り精神科医療に貢献したいと思っています。また、給付金で作り始めたブルートレインは、諦めずに続ける予定です。

就労支援センターステップ

- 重点目標：魅力ある事務所として研鑽し、利用者から選ばれるよう、常に高い目標持って業務に取り組むことを目指します。
- 取組事項：①事務所内の連携及び各関係部署との連携を強化します。
②新規利用者の獲得の為に積極的に働きかけていきます。
- 数値目標：①移行：年間4名以上の就職及び定着率100%
②B型：月1000名以上の利用者



地域活動支援センター ひだまり

- 重点目標：地域の期待に応えられる事務所になります。
- 取組事項：①相談支援事業及び地域活動支援センター事業の支援体制（ピアソポーター含む）の充実
②行政その他関係機関との連携による支援体制の強化
③事務的業務の効率化
④地域活動支援センター事業内容の充実
- 数値目標：①地域活動支援センター事業 20件/日
②指定特定相談支援事業 100件/月
加算40件/月
③指定一般相談支援事業 3件/月
④自立生活援助事業 3件/月



グループホームしらゆりの郷

- 重点目標：①個々のニーズに応じた適切な支援を行い、中間施設としての役割を果たします。
②安心、安全な生活環境を提供します。
- 取組事項：①多様なニーズに対応できる体制づくり
②入居申し込みから入居までの期間短縮
③関係機関・部署との連携強化
- 数値目標：平均利用者数 26名以上
利用率 90%以上
サテライト型住居 3件以上



病院目標 奄美の精神科中核病院としての地域ニーズに合わせた利用者本位の適正な地域生活支援

2021年度 取り組み方針・抱負

運営のカギを握る 病床利用率と生産性の向上

名誉院長 杉本 東一



コロナ一色の昨年度でした。皆様も緊張の糸が張りっぱなしの本当にご苦労の多い一年だったと思います。心より感謝と敬意を表します。

さて、令和3年度は、法人第2次中長期5カ年計画(マスタープラン)の最後の年です。引き続き、長期入院患者の退院促進を図り、患者さん・ご利用者が地域で安心して生活できるよう、併設の訪問看護ステーション「イルカ」、指定障害福祉サービス事業所「あらいぐま」、グループホーム「ひまわり」、指定特定相談支援事業所「あゆみ」と奄美病院グループのチカラを結集して、地域での暮らしを支えるべく日々取り組んでまいります。しかしながら、退院促進の流れの中、社会資源も充実し、利用者の地域での生活が確立されつつある一方、病床利用率低迷による入院診療収益の減少が、当院の大きな課題の一つです。もう一つの課題が、「生産性の向上」です。奄美病院グループも段階的にIT化を推し進めており、それに併せ業務改善も進めているところです。

上記2つの大きな課題を克服するにはどうすればよいかが、令和3年度、またそれ以降の運営のカギとなります。

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築をさらに推し進め、患者さん・ご利用者本位の生活を支え、精神科中核病院として、本年度も地域医療に貢献してまいります。

さて、Professionalも第25号の発刊となります。発刊される4月は、ワクチン接種も進みコロナも落ち着き、明るい未来となっていることを切に願います。

指定障害福祉サービス事業所あらいぐま

重点目標：新規登録者の積極的な受け入れ態勢の拡充

取組事項：利用者の誰もが元気になる場を目指します。

「安心」「つながり」「自信」「やりがい」

数値目標：一日平均利用者数53名



指定特定相談支援事業所あゆみ

重点目標：地域に必要な事業所として、信頼のおける相談窓口となるよう努めます。

取組事項：
①利用者のその人らしい生活を支援します。
②支援体制の整備とサービス提供の質の向上に努めます。
③働き方改革を推進し、働き甲斐のある職場環境の構築に努めます。

数値目標：計画相談件数110件/月、契約者数215件(利用者数合計)



訪問看護ステーションイルカ

重点目標：利用者がその人らしく心身共に健康で安心して過ごせるよう支援します。

取組事項：
①訪問体制の強化と訪問看護の質の向上
②喜界島における訪問看護の展開
③適切な業務改善と人材育成

数値目標：計画相談件数780件/月、契約者数210件



グループホームひまわり

重点目標：利用者が社会生活を営む上で適切な支援

取組事項：
①入居者に寄り添う支援を行うための質の向上
②奄美病院グループ後方支援としての役割

数値目標：入居率70%の維持



病院目標 「南三島」唯一の精神科病院として 地域へ密着した医療・介護・福祉の提供

2021年度 取り組み方針・抱負

2021 年度に向けて

院長 末満 純一



皆さん毎日のお仕事ご苦労様です。思うに昨年度はコロナが話題に上らない事がない日々の連続でした。そんな中、実際に現場で治療に当たられた方々もいらっしゃいました。ほんとうに有難う御座いました。

直接は治療に関係しない、我々精神科でも受け入れ体制のシミュレートをしたりして貴重な経験をすることが出来ました。まだ収束したわけではありませんが緊張を持って本年度も患者さんの支援、地域の方々との交流をしていきたいと思います。徳之島病院は離島唯一の精神科であり、これまでいろいろな人たちの支えの上で医療・福祉に携わってこられました。スタッフ、患者さん、家族、地域、この「ひと」あっての徳之島病院です。

昨今「入院から地域へ」治療の場が移って来ています。ただ退院するだけではなく、退院後も充実した生活が送れるような支援が必要です。これを行うためにもあらゆる分野の「ひと(人材)」が求められます。島の人口が減少し高齢化も進んでいます。このような状況の中、これまで慈愛会の皆様の力添えがあってやってこられました。ありがとうございました。またこれからもよろしくお願ひいたします。

グループホームうんばた

重点目標：グループホーム入居者の地域移行、自立に向けての支援

- 取組事項：
①入退所後の総合的な支援(訪問看護、デイケア、就労施設等への働き方の支援)
②利用者の健康管理や事故防止の継続的な取り組み
(看護師配置、ナースコールの夜間支援、緊急連絡時の24時間対応)
③日常生活においての生活支援(料理、買物、身の回りのお世話)
④社会復帰促進の取り組み(院内での障害者雇用)

数値目標：利用率 83.3%

うんばた



オーダリングシステム導入のご報告

徳之島病院 薬局長 東槻 徹



徳之島病院では令和2年12月16日にオーダリングシステム導入プロジェクトを開始し、令和3年4月1日に無事、本稼働を迎えることができました。

ただでさえ過密なスケジュールの中、オーダリングシステムだけでなく医事会計システム・小遣い銭管理システムの切り替え、検査機器の導入、病院機能評価の更新申請、大規模な医薬品の供給停止、島内でのクラスター発生、新型コロナワクチン接種の開始など、様々なことが重なった中での導入となりました。

困難な状況の中、無事システムを導入することができたのは、院内各部署の導入担当の皆様、部署長の皆様、南

日本情報処理センター(MIC)のご

担当者様のご尽力のおかげです。また、慈愛会の各施設・各部門、本部、情報室の皆様にも色々な面でご尽力いただき、本当に助かりました。今回の導入を通して、慈愛会の法人全体としての力を実感し、とても心強く感じました。

今は新しいシステムに慣れることだけで精一杯ですが、少しずつシステム化のメリットを活かしていき、業務改善に繋げていきたいと考えております。



*写真はいずれもシステム導入説明会の様子

介護老人保健施設 愛と結の街

入所定員100床 職員数 180名
(併設事業所含む)

目標 「人生100年時代の地域包括ケアの街創り」
愛され信頼される老健施設を目指す

2021年度 取り組み方針・抱負

谷山地区における「超強化型老健」としての 存在意義を示したい（その4）

施設長 野村 秀洋



今年度も昨年同様に「超強化型老健」としての更なる機能アップを目指し、1. 在宅復帰、在宅療養支援のための地域拠点となる施設、2. リハビリテーションを提供する機能維持・改善の役割などを担う施設として→「地域包括ケアシステムの拠点:街創り（図1）」に取り組みます。

本年度は更に住宅型有料老人ホーム あいゆいの家を4月下旬の開設を目指し、地域や周辺事業所、行政との連携を深めて、地域に根ざした施設を企画しています。

老健施設の目指すところは、中間施設の役割は無論のこと、日常の療養支援を行う関係機関として、その役割は、①相互の連携で医療や介護、障害者福祉サービスを包括的に提供、②医療機関は、地域包括支援センターが地域ケア会議で患者に関する検討をする際には積極的に参加、③地域包括支援センターなどと協働し、在宅療養に必要なサービス（通所・訪問リハビリテーション）や家族の負担軽減につながる介護サービスを適切に紹介、④認知症患者等それぞれの患者の特徴に応じた在宅医療体制の整備、⑤身体機能及び生活機能の維持向上のためのリハビリの適切な提供、⑥看取り機能、などが求められます。とくに看取り機能は老健施設の在宅復帰との両輪と考えており積極的に取り組んでいます（図2）。

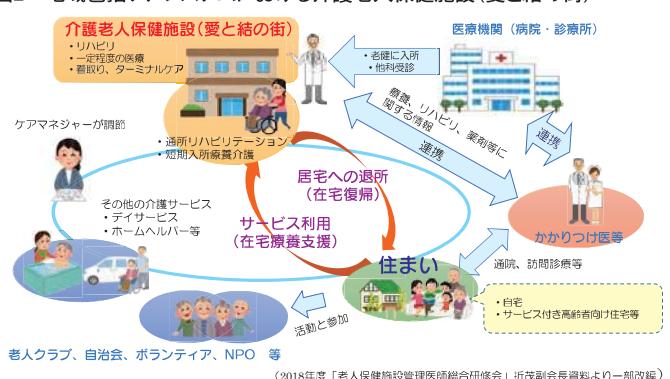
我々は、老健を中心に愛結グループ（居宅介護支援センター・訪問看護ステーション・ヘルパーステーション・デイサービスセンター・グループホームなど）の多職種協働の下、谷山地区を中心とした「地域包括ケアシステムの拠点」を目指して、地域活動に貢献しています。

「超強化型老健」としての「在宅復帰と生活支援」の機能強化に職員一丸となって取り組み、人生100年時代の生活支援の場として地域の皆様方にご利用いただければと願っています。

図1 慈愛会版 地域包括ケアシステムの姿



図2 地域包括ケアシステムにおける介護老人保健施設(愛と結の街)



（2018年度「老人保健施設管理医師総合研修会」折茂副会長資料より一部改編）

住宅型有料老人ホームあいゆいの家の新設について

管理者 中馬 健一

介護老人保健施設 愛と結の街は、入所者の在宅復帰及び在宅生活が継続出来るように併設事業所等と協力しながら様々な支援を行っています。実際にに入所者・家族の大半は在宅復帰を望まれており、ここ数年では入所者の約半数が在宅復帰されています。内訳を見ると、在宅で生活できる方（独居では不安、同居でも家族の支援だけでは不足する方、経済的な理由等）の内、年間40～50名程度の方が有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等へ入居されています。そのような実情を踏まえ、愛と結の街グループでは①退所後も安心出来る住み慣れた環境（住まい、ケア体制）を提供することで、シームレスな支援体制を構築出来る、②在宅復帰の課題解決に向けたトライアルの場として活用出来る、といった目的を持って住宅型有料老人ホームを新設することになりました。8部屋、最大10名の小規模な事業所となります。入居者の望む暮らしを実現するように支援して参りたいと思います。



重点目標、取組事項：①生活支援を充足化することで入居者が安心して過ごせる環境を構築します。

- ②地域住民や近隣事業所、行政機関等と連携を深めて地域に根ざした施設を作ります。
- ③業務内容や設備環境を整えて、スタッフが継続的に働く環境を作ります。
- ④スタッフが法人内外研修、勉強会に参加する機会を設けて職能人としてのスキル向上を図ります。

数値目標：年間利用率 70%

愛と結の街グループ

指定居宅介護支援センター愛と結の街

重点目標：未永く在宅生活が継続でき、本人の望む暮らし
が実現できるよう、様々な事業所との関係強化
を目指します。

取組事項：自立支援・予防を念頭に、本人を中心とした
在宅生活継続に向けたケアプランの作成を行
います。

数値目標：介護保険サービス利用者数 260件/月
加算取得等 70%以上



ヘルパーステーション結の街

重点目標：利用者の生活を一緒に考えながら、他職種と
連携し、より良いサービスを提供します。

取組事項：①併設事業所との成果が見える効果的運営を行
います。
②利用者・職員の満足度向上を目指します。
③事務作業の効率化を図ります。
④多様な利用者の受け入れと質の向上を図ります。

数値目標：①訪問件数 月900件
②苦情件数の低減、有休取得率の向上
③資格取得・研修参加率の向上



笹貫訪問看護ステーション愛の街

重点目標：心に届く慈愛の看護をモットーとし、地域で
必要とされる事業所をめざします。

取組事項：①法人内や地域での円滑な連携の強化
②各専門職種の力を発揮できるように、生産性
の向上をめざします。
③サテライトを活用し、エリア拡大に努めます。
④多様な健康障害の利用者に対応できる人材
育成
⑤やりがいのある職場風土をつくります。

数値目標：①利用者数300名
②月間件数950件



デイサービスセンターあしたの風

重点目標：愛と結の街グループや谷山病院・地域と連携
し、利用者や家族が自宅で安心した生活を継
続できるように支援していきます。

取組事項：①多職種共同で認知症の専門性を高め、利用者
のBPSDの緩和や心身機能の維持を図ります。
②認知症や介護の困り事相談や専門的アドバイ
スを行い、家族の介護負担の軽減を図ります。
③LIFEを算定し、質の向上を目指します。

数値目標：利用率 70%
新規利用者 15名



愛と結の街グループ

デイサービスはなぶさ

重点目標：地域や関連事業所と密な連携を図り、幅広いニーズに対応。利用者が生き甲斐を持って在宅で生活し続けられるように支援します。

取組事項：
①通所リハビリ、老健、有料老人ホーム、訪問系サービス等と連携を図り、より利用者の状態に合わせた適切なケアが提供出来るよう支援体制を強化します。
②より効果的な介護が実践出来るようにLIFEを活用していきます。
③介護の高度化に対応出来る人材育成を行います。

数値目標：
平均利用率 60%以上
他支援事業所割合 40%以上
利用登録者数 60名以上



グループホーム愛と結の街

重点目標：予防的視点での多職種協働を図り、柔軟で即応性のある支援力と認知症ケアの専門性を活かし、住み慣れた地域で暮らし続けられるように支援します。

取組事項：
①重度化により多様化したニーズへ柔軟な支援
②継続的支援、予防的視点での認知症ケア
③多職種連携によるサービスの提供
④目標管理を通じた人材育成
⑤認知症の人が安心して生活できる地域づくりへの参画

数値目標：利用率98.4%



鹿児島中央看護専門学校

目標 医療の高度化、超高齢社会に対応し、
地域住民の医療に貢献できる
看護師の育成

2021年度 取り組み方針・抱負

魅力ある看護基礎教育の実現を
～地域で活躍できる看護職の育成に向けて～

3年課程看護科 副校長 久徳 美鈴

2022年看護基礎教育は第5次改正を迎えます。昨年から大流行したコロナ禍での経験は、医療を取り巻く変化を加速し、看護教育にも新たな価値を生み出しました。本年度は、その価値を受け入れつつ、新たな看護基礎教育を創造していく年にしたいと思います。

今回のカリキュラム改正では、「地域特性や学校・養成所の理念に基づき画一的ではない弾力的な教育開発」が求められています。慈愛会・本校の強みを活かし、地域で活躍できる看護職の育成を目指して、魅力あるカリキュラムを編成します。また、本年度から始まる放送大学とのダブルスクール制度の支援、慈愛会看護部と連携し卒業生の支援にも力を入れたいと思います。

定員 3年課程看護科40名／2年課程(通信制)看護科150名
職員数 32名 校長 今村 英仁



「自信をもって看護が提供できる
看護師」の育成

2年課程(通信制)看護科 副校長 南 ひとみ

令和3年度、鹿児島中央看護専門学校 2年課程通信制では本校最後の学生が全員修了し、同時に看護師資格を取得することを目指します。学生が主体的に学習できる能力を養い、判断力・応用力・問題解決能力の強化を行います。さらに安全な医療を提供する看護専門職者として科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身に付け、看護者としての倫理観と責任感を育成します。そして、自信をもって看護が提供できる看護師の育成を目指します。准看護師が看護師へとステップアップして南九州地域の看護の質向上に貢献できるよう教育を行っていきます。

高麗町クリニック

職員数 12名

“慈愛会ブランド”の充実
～社会貢献と業績の両立～を目指す
院長 下本地 優



2009(平成21)年11月に開院し、2010年4月から数えても節目の10年を経過し、2020年度はクリニックの新体制(次の10年)に備える11年目と位置づけていましたが、新型コロナ肺炎に煽られて落ち着かない一年で、数値目標が初めて予算を下回り(70%)ながらも黒字経営を維持し得たのはクリニックのチームとしての成熟の賜物で、コロナ禍にあっても“在宅医療の社会的ニーズ”をあらためて実感する“我慢の1年”となりました。

さて2021年度はいよいよ一事業所として経営の安定を図りつつ、チームの新体制の編成に着手しますが、公益財団法人として地域医療の充実に寄与すべく、引き続き多職種連携～多施設連携のハブとして“在宅療養支援”的現状と重要性をさらに法人内外に発信しつつ、社会貢献と業績の両立を目指す“慈愛会ブランド”的充実を目指したいと思います。

平たく言えばどこの入口から相談してもそこから様々な施設連携が連動～機能し、最終的に利用者の評価～感謝を獲得し、“慈愛会で”という評判が口コミで拡大するよう…。

七波クリニック

職員数 22名

感染症対策の制限下
できることを肅々と

院長 鮫島 久子



糖尿病内科として、診察前に栄養士を含め看護師による問診、療養指導、症例によっては足観察や簡易処置を行い、医師診察を行っています。医師の体制は常勤1名、非常勤5名です。令和2年の1ヶ月平均実患者数は平均1,041名(実人数)でしたが、初診患者数123名、栄養指導件数528件で前年比減少していました。新型コロナウイルス感染症の影響だと思いますが、対面での栄養指導や、他院での検査、ドックを受ける方も減っています。外来での糖尿病教室を2020年4月に実施しましたが、その後再開できませんでした。患者さんと接する時間、空間に制限のある状況が続き、今後糖尿病合併症を含め大きな疾患が増えるのではと心配ですが、制限内でできることを肅々と続けていく予定です。

慈愛会クリニック

職員数 14名

感染対策と患者の不安を取り除く努力

院長 今村 尚子



来年度の目標患者数は、外来患者延べ人数900人、糖尿病患者数800人と前年度の目標よりそれぞれ減らしています。開院以来初めてです。前年度は、コロナ禍により受診控えや院内での滞在時間短縮のために薬だけを希望する患者が増加し目標を達成できた月はありませんでした。新型コロナウイルス感染拡大の影響は、来年度もあると思います。糖尿病は、より良い血糖コントロールのために定期的な検査と受診が大事です。コロナウイルス感染を恐れるあまり自己中断した結果、病状が悪化した患者様がいらっしゃいます。来年度も患者様が安心して、受診できるように感染対策の徹底やコロナ禍の不安を少しでも取り除けるようソフト面でのサポートを心がけていきます。

かごしまオハナクリニック

職員数 9名

「かかりつけ」の質にこだわりつづける

院長 林 恒存



2019年10月オープンから1年半が経過し、「お花」「おはら」といった誤認も減り、おかげさまで慈愛会関連施設はもとより、他の医療機関や介護福祉関連施設からも依頼を数多くいただきました。新型コロナ流行を契機に、在宅療養ニーズの高まりを日々実感します。疾患発症・悪化予防・入院回避をめざす定期外来、訪問診療と、適切なタイミングでの今村総合病院、いづろ今村病院、他医療機関への橋渡し、そして「病があっても平穀におうちで過ごしたい」思いを、今年度も24時間365日体制で支援致します。新年度の数値目標は敢えて設定せず、かかりつけ1人1人のケアの「質」向上に役立つ取り組みや工夫を積み重ねて、オハナクリニックの存在価値を高めることを1番の目標にしたいと思います。

2021年度

慈愛会 職能部門別 事業計画

今年のトピック

— 新規の取り組み、重点的に取り組む事項をピックアップ —

看護部支援室

特定看護師（特定行為研修修了者）の活用と活動推進（新規）	これまでに慈愛会全体で10名が特定行為研修を修了し、実践の場で活躍しています。令和3年度は新たに認定看護師教育課程に特定行為を盛り込んだ研修含め6名が受講予定であり、研修修了後の活躍がますます期待されます。特定行為研修修了者が全員自律して、専門性を発揮できるための体制を整備し活動を推進します。
マネジメントラダー再構築と運用による看護管理者育成（重点）	看護の質を保証する上で重要な役割を担う看護管理者に対し、慈愛会ではマネジメントラダーを作成し、育成と支援を行ってきました。社会は様々変化し、求められる看護管理者の役割も変化、拡大しています。2019年に日本看護協会版マネジメントラダーが公表され、地域まで視野を広げた看護管理を実践するために必要とされる能力が可視化されました。それを指標に看護部長会にて慈愛会看護管理者に必要とされる能力の再構築、資質の見直しを行います。新マネジメントラダーの周知を行い、看護管理者の段階的な人材育成と支援に取り組みます。
第2回心に届く慈愛の看護を語る会（重点）	第1回の昨年度は新型コロナウイルス感染対策を行い、無事に開催することができました。昨年から慈愛会で統一したクリニカルラダーを運用しています。新たなクリニカルラダーには「看護の核となる実践能力」の一つに慈愛会独自として「心に届く慈愛の看護」を設定しました。第1部で表彰式、第2部でレベルV申請者の「心に届く慈愛の看護」取り組み報告・意見交換を行います。鹿児島中央看護専門学校新入生および新人看護師も参加し、今後看護師として目指すべき方向性を見出す機会とします。

リハビリテーション部

県民向けへのリハビリテーション部からの情報発信（新規）	今村総合病院を利用される、またそれ以外の一般の方向けに、YouTubeを利用して、障害予防の伝達、疾患（片麻痺・高次脳機能障害・嚥下障害等）の情報提供、当院施設紹介、3階リハビリテーション部のリハ治療内容等の動画配信を検討中。当院リハビリテーション部のアピールにも繋がるよう、年4回を目標に実施していきます。
ロボットリハ・運動療法（Robotic Assisted therapy : RAT）の推進（新規）	患者の潜在的な運動を促し、運動を再学習させて効率的なリハビリを提供する事で、治療効果を増し結果に繋げ当院の実績・アピールとします。今年度、スポーツPTへは下肢（主に膝関節）の最新の評価と運動療法可能な機器、3階作業療法（OT）部門には、麻痺側上肢（特に手指）の治療を補助するロボットリハ機器が配置予定。RAT推進にて、効果的なリハの提供を実施します。（次年度は、片麻痺下肢に対してのRATも検討したい）
セラピストの教育制度に向けての「OJTマネジャー」検討（新規）	新人教育に向けて、今まででは先輩セラピストが臨床と併用での教育を実施していたが、看護部のようにリハビリテーション部内に技術的な現場教育を行える「OJTマネジャー」配置を検討します。昨年度からの教育ラダーも含め、整形・脳卒中等に対する実技指導もコラボします。また、上記のRAT実施に際しては、準備とデバイスの装着に要する時間をいかに短縮するかも臨床上の課題であり、これらのフォローと最新情報の伝達・技術指導実施にて、当院のセラピスト教育システム上の特徴としたい。

画像診断部

医療被ばく低減（重点）	医療被ばくの最適化を順守するために、新たな診断参考レベル『DRLs2020』を参考に撮影条件の見直しを行います。
放射線障害防止対策（重点）	電離放射線障害防止規則改訂2021.04施行に伴い、放射線業務従事者水晶体被ばくの低減に努めます。

薬剤部

地域医療を担う地域薬学ケア専門薬剤師（調剤薬局・薬剤師）養成研修の実施（新規）	研修カリキュラムにしたがって、調剤薬局の薬剤師に必要な幅広い領域の薬物療法における高度な薬学知識・臨床知識・専門的技術を指導し、臨床経験を積むとともに、相応しい態度を身につける研修を実施します。本年度3名研修開始。
処方オーダリングシステム導入による業務効率化（新規）	奄美病院・徳之島病院の処方オーダリングシステム導入による業務の効率化とそれに伴う業務手順の見直しを実施します。なお、電子カルテ導入は先送りされたため、オーダリングシステムと紙カルテ併用によるリスクを回避するための情報共有体制を整えていきます。
職員能力開発プログラムの活用（重点）	薬剤師の能力開発プログラム、クリニカルラダー・レベルⅠ～Ⅴに沿って指導を行い、薬剤師の達成度の評価を行い、薬剤師として必要な幅広い領域の臨床知識等の資質向上成長につなげます。

栄養管理部

栄養情報提供書（重点）	急性期から在宅まで一貫してサポートしていくために、栄養情報を正しく伝えることが重要視されています。慈愛会栄養部門に於いて、書式統一と活用重視の観点から簡易版の作成をすすめ、情報提供できる体制へ整えていきます。
安全対策等における連携（新規）	非常食の内容は共有フォルダにて情報共有できていましたが、マニュアル等を検討および共有していく体制が必要と考えられます。そこで、非常食のみならず、感染や衛生管理など安全対策に関する連携を目指し、マニュアル等の整備に取り組んでいきます。
クリニカルラダーの運用開始（新規）	栄養部門では、管理栄養士の能力開発プログラムを作成しました。今年度から運用を開始し、各成長レベルに応じた到達目標に向かって自己研鑽できる仕組みを構築していきます。

臨床検査部

慈愛会臨床検査部の連携強化（重点）	臨床検査部一体化会議（今村総合病院・いづろ今村病院・谷山病院）を隔月開催し、連携病院間で検査業務を見直し、改善や効率化、相互に業務連携できる体制づくりの具体的な検討をおこなっていきます。
クリニカルラダーの正式運用の開始（新規）	2021年度よりクリニカルラダーの臨床検査技師部門を開始します。各レベルに沿って指導、評価をおこない、各技師が病院職員として自分の目標に向かって研鑽していく環境を整えていきます。
連携病院間の検査結果検索ネットワークの充実（重点）	診療科に迅速で正確な検査報告をおこなうため、連携病院間での検査結果検索ネットワーク充実させて、検体検査、生理検査、病理検査の各部門で結果報告・閲覧システムの改善、業務の効率化などを進めます。

慈愛会総合情報システム（J-TIS）

システム構築／統合の推進（重点）	慈愛会内部で作成されたシステムについて、今後の継続的な利用と保守性を高めるためにパッケージソフトへの統合・移行を進めます。また、慈愛会の各施設（病院・クリニック）にオンライン資格確認システムを導入します。
システム管理のための環境整備（重点）	慈愛会施設内に設置され稼働しているサーバのうち、仮想化が可能なサーバについては、仮想化してデータセンターへ移設します。仮想化することにより、ハードウェアメンテナンスの負荷を軽減し、障害に強いシステムを構築します。
電子カルテシステムの更新に向けた検討（新規）	急性期病院で稼働運用している電子カルテシステムの新バージョンへの更新に向けて、現在のシステムにおける問題点や、新バージョンで追加・変更された機能について情報収集を行います。

医療福祉相談部

初任者教育研修（重点）	2021年度慈愛会ソーシャルワーカー初任者教育研修を、4月・11月・3月に開催予定といたします。
クリニカルラダー導入（重点）	ラダーを有効的に活用し、ソーシャルワーカーとして、社会人・医療人として、職員個々の資質向上とキャリア形成ができる仕組み運用を確立していきたいと考えています。

施設管理課

省エネ法に伴う定期報告、目標部分（エネルギー消費原単位を中長期的にみて年平均1%以上削減の努力）の達成に向けての体制再構築（重点）	「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」（省エネ法）により公益財団法人慈愛会全施設のエネルギー使用量等を年1回報告する義務が有り報告の目標部分（エネルギー消費原単位を中長期的にみて年平均1%以上削減の努力）の達成に向けて現状に合う機器管理標準の見直しを各施設行い施設管理課会議（月1回）により検討し運用します。
スタッフのレベルアップ（重点）	昨年度は、コロナ禍の影響により講習を十分に実施できなかつたが本年度は電気基礎講習（講師：九州電気保安協会）内容の充実を図り今後、第2種電気工事士、第1種電気工事士、第3種電気主任技術者等の資格取得に備えます。

総務人事部

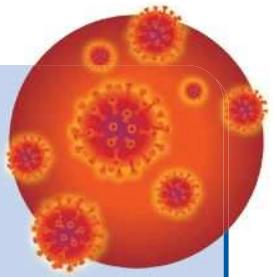
ドクターパフォーマンスレビュー（重点）	昨年度より今村総合病院・いづろ今村病院において本格導入したドクターパフォーマンスレビューについて、次の視点で検証・見直しを実施します。 評価項目【行動評価・目標達成度評価】の妥当性、医師給与表の実態との適合性、病院業績を反映させる業績賞与導入の必要性
管理会計（新規）	昨年度に引き続き、最終キャッシュフロー（C/F）残高を事業所ごとの目標とする管理会計とします。また、C/F残高状況が各グループの夏季・冬季賞与支給率に影響を及ぼします。なお、今年度より、将来の建物設備投資準備資金としてのC/Fの蓄積を加味した予算となっております。
職員給与見直し（新規）	昨年度は、「同一労働・同一賃金の原則」の適用にともない、諸手当支給における雇用形態間の格差を是正しました。今年度は、職員給与（医師を除く）について、職種ごとの給与世間相場との比較、職種間の給与格差の妥当性等の観点より検証を行い、必要な職種において給与を見直します。

教育開発センター

診療部を除く全部門の職員の能力開発支援（重点）	①教育プログラムとラダー認定制度の構築 キャリア開発推進委員会を奇数月に開催し、各部門のラダーの進捗状況を把握し、申請率・認定率の向上を図ります。 ②管理者任用候補者選考と研修の実施 ラダーIV取得者または職場の多面評価を受けた者が、11月に3.5日間の研修を受講し、選考として筆記試験・面接試験を実施します。
中間管理者のマネジメント力向上（重点）	①ミドルマネジメント研修開催 目標管理と人材育成の向上を目指す研修を開催（9月） ②目標管理評価会開催 各病院・施設で開催（2月）
慈愛会学会の質向上（重点）	①慈愛会学会運営委員会を毎月開催し学会の管理をします。 ②第1回慈愛会学会学術集会開催（7月10日） ③かごしま慈愛会ジャーナル発行 学術集会発表から選出し発行。電子ジャーナルと製本発行（12月）

シリーズ

COVID-19 Pandemic 私たち慈愛会の使命 Vol.3



全科にまたがり活動できる 感染症内科を目指して



今村総合病院 救急総合内科 医長 有馬 丈洋

2020年度は、慈愛会の皆さんもそうでしょうが、私は感染症を専門とするインフェクションコントロールドクター(Infection Control Doctor : ICD)の一人として、新型コロナウイルスに振り回されっぱなしだったと言っても過言ではない1年でした。

そのような中、当院では感染症内科を立ち上げることになりました。実はこの感染症内科新設は、降って湧いた話ではありません。以前より、救急総合内科主任部長の西垂水和隆先生と構想を練っていたことでした。それが、新型コロナウイルス感染症の流行により、今まで以上に感染症対策の重要性が増し、感染症対応のニーズが格段に高まったことから、急ピッチで開設準備が進みました。

また、常日頃から鹿児島県は他県に比べ感染症対策が遅れていると感じていました。おこがましいかもしれませんが、当院に感染症内科を設置することで、県における感染症対策のレベルアップにつながればと思っています。

現在は感染症内科を救急総合内科の中に設置しています。感染症内科が取り組むべきことは幅広く、業務が多岐にわたります。しかし、専任の医師は私一人であり、まずは院内のコンサルテーションを業務のメインとして取り組んでいきます。将来的には、対象者を新型コロナウイルス患者に限定せず、広義の発熱外来も行いたいと考えています。軌道に乗り出したならば、海外からの帰国者や外国人の患者も増える可能性があります。また、他医療機関では感染症の管理が上手くいかない患者を受け入れていく可能性もあるでしょう。現に、当院は県からの求めで「新型コロナウイルスのワクチン接種後の副反応を疑う症状の診療に従事する専門的な医療機関」になっています。

今回の感染症内科立ち上げをきっかけとし、目の前の患者だけでなく、地域との連携強化も図りながら、全科にまたがり活動できる感染症内科を目指したいと思います。



新スタッフの皆さん 入職おめでとう

公益財団法人慈愛会は2021年4月1日、新たに129人（新卒116、既卒13）の入職者を迎える「第72期入職式」を挙行しました。

新型コロナウイルス感染症対策として、全員が一堂に会する合同入職式は2年連続で見送りとなりました。法人事業本部と5病院1施設（今村総合病院、いづろ今村病院、谷山病院、奄美病院、徳之島病院、介護老人保健施設愛と結の街）を映像で結んで、理事長式辞をライブ配信しました。

今村英仁理事長は、式辞の中で「皆さんの先輩方は、新型コロナ禍という未曾有の事態に直面しても決して逃げることなく、事態をしっかりと受け止めて、どう対処すればよいかを考え、患者さんやご利用者を守らなくては」と頑張ってきました。まさに『患者さんを肉親と思い医療の達人（プロフェッショナル）を目指す』という理念そのものです。皆さんもそれぞれの職種でキャリアアップに努めプロフェッショナルとなっていただきたい。一緒に素晴らしい慈愛会を作り上げていきましょう』と呼び掛けました。

新入職員には、各配属先において辞令が交付されました。



第72期新卒新入職員

（氏名省略）



(氏名省略)



慈愛会学会発足と第1回学術集会の開催について

慈愛会学会運営委員会 委員長 中重 敬子

●慈愛会学会発足の意義

当法人は、創設87年となり1,589床を有する医療・福祉の組織として拡大してきました。職員は2,400名を超える、各種専門職が医療福祉の質向上を目指しております。

その歴史をたどると、多くの業務改善や研究的取り組みの積み重ねがあり、慈愛会という組織を強くたくましく大きくしてきましたと思われます。しかし、それらを承認したり公表したりする場がなく、病院・施設毎、または部門毎の発表会や報告会に留まっていました。

今回、全職種が一堂に会し、それぞれの活動・活躍している内容を分かりあうことをねらいとして学術集会を開催することに致しました。

慈愛会学会の目的は、「多職種が専門性を高め相互の学習の機会を作り、多職種協働の文化の醸成と医療の質向上を図ること」です。

この目的を果たすべく第1回慈愛会学会学術集会は、組織の活性化の源となり、今後の職員の活躍が一層活発になることを期待できると思われます。

第1回慈愛会学会学術集会演題登録数 演題登録数63題 (口演24題 示説39題)

部 門 別	診療部 看護部 診療支援部 事務部 教員	7 36 14 4 2	病 院 施 設 別	いづろ今村病院 今村総合病院 谷山病院 奄美病院 徳之島病院 愛と結の街 鹿児島中央看護専門学校 クリニック・法人本部	17 14 14 2 4 7 2 3	カテゴリー別	医療・福祉の質 地域医療 医療安全 医療経済 人材育成 働き方改革 その他	30 3 4 3 7 6 10

開催日 2021年7月10日(土曜日) 8:20開場 9:00開会式

開催方法 会場:鹿児島県市町村自治会館 4階 口演:ホール 示説:403号室

鹿児島市内の病院施設の方は基本会場での参加
(会場に行けない場合、いづろ今村病院・谷山病院でのリモート参加可能)
奄美病院・徳之島病院の方は発表者以外はリモート参加

発表について 口演:発表6分 質疑応答3分
示説:発表:ホールにて1分以内・スライド1枚で発表
質疑応答:ポスター展示場
ポスター貼付可能時間 7月9日(金)18:00~21:00 10日(土)8:00~9:00

87



【鹿児島中央看護専門学校の取り組み】



慈愛会で働く職員の行動指針となるようにとの願いを受けて、2015年「慈愛会フィロソフィ」が作成されました。その後、検討委員会を中心に各施設でフィロソフィ浸透活動に取り組み、6年目を迎えていきます。その間鹿児島中央看護専門学校では、会議の冒頭に、職員が交代で「慈愛会フィロソフィ」の一項目を読み、自身の行動の振り返りや最近思ったことなどとあわせて、他の職員と意見交換するということを継続しています。内容は、業務の振り返りであったり、学生指導場面の振り返りであったり、私事であったり様々です。

先日は、「有意注意で判断力を磨く」という項目が取り上げられました。その職員は仕事のある場面を取り上げ、些細な業務だからこそ有意注意で行うことが仕事を円滑に進め、意味を考えることにつながると話していました。その話を聞き、私自身も確認がおろそかになつていいのか、学生の表情を見過ごしていいのかと反省する機会となりました。また、取り上げられた内容から、職員がそのようなことを考えていたのかと新たな発見することもしばしばです。

日常の場面でも、「真面目に一生懸命仕事に打ち込む」ということを考えながら、学生と看護という仕事の面白さ、人が生きていく上の仕事の意義、自己実現等について話したり、教員同士で、「能力を未来進行形で捉える」という項目を引き合いに出して教育観を語り合うこともあります。

このように、短時間のフィロソフィ浸透活動ですが、継続することで「慈愛会フィロソフィ」が私たちの行動や考え方の道しるべとなっていると感じます。まさしくこの活動も、「亀の一步で努力を積み重ねる」に通ずるもので。これからも、「慈愛会フィロソフィ」の一つひとつの項目が更に自分達の中に浸透し、慈愛会の先輩達が作り上げてきた慈愛の精神を引き継いでいけるように、取り組んでいきたいと思います。

鹿児島中央看護専門学校 顧問 大保 まり子
(慈愛会フィロソフィ委員)

「慈愛会フィロソフィ」で感じたこと、学んだこと



「フィロソフィ」の中には正しい「物の見方・考え方」が多く語られています。いつも他の人の解釈を聞き、新たな気づきが得られます。

学生指導をしている中で、学生だから見える事、感じる事を聞き、はたと看護の本質とはなにかを考えさせられることがあります。実は「教える」と1方向で指導しているのではなく、私自身も学生から学んでいると気づきます。そんな時、フィロソフィの中にある「謙虚であらねばならない」を読み、学生がいるから自分の存在意義があり、そこから自分も成長できると謙虚な姿勢を持ち続けることが大切であると学ぶことができました。

このフィロソフィは私にとって、職業人としてだけでなく、「きれいな心…」「素直な心…」などといった幼少期から学んできた道徳心のような人としての原点をも呼び覚ましてくれるものです。いつも正しい方向に進むべき指針が記されていると感じます。これからも、行き詰った時、方向性を見失った時など、このフィロソフィを羅針盤として読み解釈していきたいと思います。

鹿児島中央看護専門学校3年課程 看護科 専任教員 松山 日実子

冊子抜粋

第24項 「常に謙虚であらねばならない」

世の中が豊かになるにつれて、自己中心的な価値観を持ち、自己主張の強い人が増えてきたと言われています。しかし、この考え方ではエゴとエゴの争いが生じ、チームワークを必要とする仕事などできるはずはありません。

自分の能力や僅かな成功を鼻に掛け、傲り驕るようなことがあると、周囲の人達の協力が得られないばかりか、自分自身の成長の妨げにもなるのです。

そこで集団のペクトルを合わせ、良い雰囲気を保ち、効率良く仕事を進めるためには、常に皆がいるから自分が存在できるという認識のもとに、謙虚な姿勢を持ち続けることが大切です。

在宅医療

リレーエッセイ④

在宅緩和ケアで思うこと

かごしまオハナクリニック 医師 崎山 隼人

総合病院と連携しながらオハナクリニックが在宅で関わった方がおられました。患者さんは、いよいよ最期というときは入院する、という意向でした。病状も安定しているとはい難い状況でしたが、1泊2日の家族旅行をされたり、本人のちょっとした変化に奥さんがいち早く気がつき心不全を自宅で治療できたりと、医療者がびっくりするような家族の支えがそこにありました。家族の負担になるなら入院する、と言っていた患者さんでしたが、いよいよ最期が近づいてきたとき、「家にいたい」とご家族に伝えました。ご家族も自宅でみていく覚悟はできていました。ぎりぎりまでご家族と会話され、自宅でお看取りさせていただきました。

終末期にある方の在宅ケアは、その人にどうって何がベストなのか非常に難しいです。終末期にあることで、患者さんはもちろん、家族も動揺していますし、明確に正解と言える選択肢も少なくなっています。そんな状況での意思決定は容易ではありませんが、この事例のように、家族がケアの中心となって患者さんの意向を変えるようなこともあります。長年住み慣れた家で療養する中、少しづつ変化していく患者さんやご家族の思いに寄り添い、そこから生まれる家族の力を支えられるような在宅緩和ケアを目指していきたいです。



達人

慈愛会の プロフェッショナルたち vol. 14

谷山病院併設のグループホームしらゆりの郷 南善文施設長が創作した絵本「まみちゃんのなみだのあじ」(ラグーナ出版、2021年1月8日第1刷)が、優れた児童文学の書き手育成を目指して鹿児島市が実施する「第5回児童書出版助成金」事業の対象に選ばされました。

作品は、主人公の少女(まみちゃん)のピンチを、近所の親切なおばあちゃん(ばつばん)が救ってくれる物語です。実はこの「まみちゃん」、慈愛会法人事業本部に勤める南さんの実姉 新村増美主任がモデルとなっています。

見事な“絵本作家デビュー”を果たした南施設長に、著作への思い入れを綴っていただきました。

物語の達人

グループホーム しらゆりの郷 施設長 兼作家

南 善文 さん
Minami Yoshifumi

小さい頃から本に親しみ文章を書くのが好きでした。たくさんの良書と出会い感動し、本の世界に引き込まれていきました。そんな中、少年の頃好きだったアイドルの映画出演がきっかけで川端康成先生の「伊豆の踊子」と三島由紀夫先生の「潮騒」を読み、今までの感動とは違う全身が震えるような激しい感覚がしました。「文章とは文字を繋げるだけのことなのに、これほど、人の心を動かさせて幸せな気分に出来るんだ」と感銘しました。

それからは自分の気持ちを文字に乗せて書くように心掛け、作風も変わり、今では作品も100編を超えました。テーマの殆どが家族や故郷の地域の話です。幼少期に家族や近所の先輩方から教わったあらゆる教訓が私の考え方の礎となっています。

今回は過去に短編小説として書いた作品を絵本にしました。幼い子供のいる職場の女性から勧められ、初めて絵本に挑戦してみました。絵本にする際、まみちゃんの心の変化を分かり易く例える手段はないかと、長期間悩み悪戦苦闘した結果、まみちゃんが流す涙の味の変化に置き換えるアイデアに辿り着きました。思いついた時に、皆さんから喜んで貰えるような良い作品になると確信し感無量でした。

物語は、姉が最も大切にしている近所のばっちゃんとの思い出を基にしたもので、ばっちゃんの優しさを思い出しながら文字の一つ一つと真剣に向き合い文字に命を吹き込むようにしました。半世紀前の話ではありますが、時を経ても普遍的なものをばっちゃんの愛情が示唆しています。

物語では、ばっちゃんが、まみちゃんの涙の味を変えてしま



「まみちゃんのなみだのあじ」を手にする南施設長（右）と、主人公のモデルとなった実姉の新村主任（左）

う愛情深い関わりをしています。翻って私を含めて現代の大人達は、子供達の涙の味を変えられるような関わりができるのか？なぜ親戚でもない近所のばっちゃんが見返りもない貧乏な3姉弟に愛情深く接してくれたのか？ それらの答えが今の仕事の内容や、責任者としての立ち位置やあるべき姿、そしてボランティアで参加している地元・石谷まちづくり委員会での故郷づくり活動、息子や娘夫婦との関係、多くの皆さんとの関わりに繋がることを教示しています。

子供だけで過ごす時間が長く寂しかった3姉弟の心身を癒し続けてくれたばっちゃんとの思い出は半世紀過ぎても色褪せることはありません。これからもばっちゃんに恥ずかしくない態度や振る舞いで、ばっちゃんのように優しい人間になりたいと思います。

最後に、今回の作品は、私の思いに賛同してその全てを絵に表現してくれた挿絵担当の益山素々さん、ばっちゃんの（故）原野フヂエさん、まみちゃんこと2番目の実姉 新村増美、3人の女性を中心とした皆さんのお陰で出版できました。心から感謝しております。



下鶴隆央鹿児島市長から助成金目録を受け取る
南施設長（中央）、挿絵を担当した益山さん



助成金贈呈式での記念撮影
(左から審査員、益山さん、下鶴市長、南施設長、審査員)

表彰おめでとうございます

厚生労働大臣表彰

大井秀久先生(今村総合病院|BDセンター長、前 いづろ今村病院副院长)が「令和2年度 国民健康保険関係功績者厚生労働大臣表彰」を受賞しました。

厚生労働省は、国民健康保険事業に対する功績が特に顕著であって、他の模範と認められる国民健康保険関係役職員に対し、その功績を称え労苦に報いるとともに、あわせて国民健康保険事業の発展に寄与することを目的として厚生労働大臣表彰を行っています。

大井先生はいづろ今村病院に着任された2005年からこれまで、診療報酬の審査等、国民健康保険制度の公平・公正な運営に尽力してこられました。今回の受賞は、長年にわたり国民健康保険事業の発展に寄与した功績を認められたものです。大井先生、受賞おめでとうございます。



大井 秀久 先生

看護師国家試験合格率 100% 達成 ~3年課程~

鹿児島中央看護専門学校

鹿児島中央看護専門学校では、3月5日に3年課程看護科第16期生48名が卒業式を迎え、3月10日に2年課程(通信制)看護科令和元年度生120名が修了式を行いました。

新型コロナウイルス感染対策のため会場が変更になり、通常とは異なる状況での式典でしたが、今年は各施設の院長先生や看護部長様方が来賓としてご来場くださいり、両課程の学生達は晴れやかな笑顔でそれぞれの第一歩を踏み出しました。

3月26日に発表された第110回看護師国家試験の結果、3年課程は合格率100%を達成できました。これからは自信を持って「看護師」として臨床の現場で活躍されることを期待しています。



3年課程卒業式



2年課程(通信制)修了式

第2回「心に届く慈愛の看護」を語る会 5月8日(土) 川商ホールで開催

今年度は慈愛会看護職の皆さんから57作の応募がありました。

看護の手のぬくもりの大切さを実感するエピソード、新型コロナ禍、面会制限が続く患者さん・ご家族の苦悩に看護職者も苦しみながらも最善を考えるケアが相手に伝わったエピソード、母国を離れ介護福祉士資格を目指す外国人技能実習生のひたむきな思いが詰まったエピソードなど、どの作品も感動あふれるエピソードでした。

今年度は川商ホールにおいて開催し、これから看護師を目指す鹿児島中央看護専門学校新入生、慈愛会で医療の達人を目指す新入職者も参加します。先輩のエピソードを通して心の琴線に触れ、「心に届く慈愛の看護」の伝承につなげたいと考えております。内容は2部構成で、第1部は作者による朗読と表彰式、2部はクリニカルラーベルV申請者による実践を報告します。各施設の語り継ぎたい看護を共有し、新たな創造性豊かな看護への意欲につなげたいと考えております。

審査委員長を務めてくださるのは、鹿児島出身の詩人、三角みづ紀さん(札幌在住)です。皆様のご来場、後日配布するエピソード集をぜひ手に取りお読みください。

慈愛会統括看護部長 木佐貫 涼子

**公益財団法人慈愛会 看護部
第2回 「心に届く慈愛の看護」を語る会**

慈愛の原点は慈愛であり
母が子を慈しみ育てる心
慈み、愛する心
慈愛会の医療理念です
慈愛会の精神で純粋な気持ちが
繋ぐ 繋がる ~

■日時: 令和3年 5月8日(土) 9:00~12:15
場所: 川商ホール 4階市民ホール
鹿児島市与次郎2-3-1

■第1部 9:00~11:10
「心に届く慈愛の看護エピソード」入選作品発表
入選作品の朗読と最優秀賞・優秀賞の表彰式

■第2部 11:10~11:50
慈愛会看護部クリニカルラーベルV実践報告

問い合わせ先: 法人事業本部 看護部支援室
TEL: 099-230-0063 内線: 2030

オリジナルポスターで慈愛会にエール

慈愛会

今春退職を迎えた法人事業本部の横井淳二顧問が、「これまでお世話になった各施設の皆さまへ感謝の気持ちとして」オリジナルのポスターを作成されました。

外観イメージ、病院施設の役割や立地などから着想を得たイラスト、そして、本部作成の「新入職員オリエンテーション」テキストに掲載している各病院施設のキャッチフレーズを組み合わせた、独創性あふれるポスターです。全バージョンに共通して、今年慈愛会が創設87周年を迎えることを表す「Jiaikai 87」の文字が入っています。

全8枚が、法人事業本部のあるかごしまオハナビルに展示され、各施設にもそれぞれのポスターが配布されました。各ポスターの題名と、作品のモチーフ、コンセプトを、横井顧問より紹介いただきます。



法人事業本部
横井 淳二 顧問



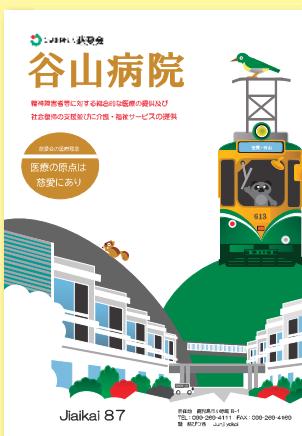
導き

旧今村病院から「いづろ今村病院」への名称変更は、いづろ交差点に建つ石燈籠のように「患者さんの灯台になりたい」との意味を込めたもので、石灯籠を描いたことにより「導き」と題しました。



パワー

鹿児島県内の民間医療機関の中で最も勢いがあり、法人のけん引役である今村総合病院を上昇力が凄いロケットに例えたもので、「パワー」と題しました。



結びつき

谷山病院への交通手段として患者さん等に親しまれる電車を描くことで、病院と世販電停の繋がりを大切にするために、「結びつき」と題しました。



癒し

奄美を代表する国の特別天然記念物アマミノクロウサギの愛くるしさを描いたもので、「癒し」と題しました。



輝き

一年中咲き誇る南国屈指の花ハイビスカスと、クジラとイルカをウォッちんぐでき海辺で白く輝く徳之島病院を描いたもので、まさしく「輝き」と題しました。



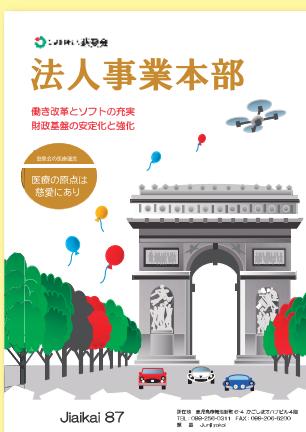
やすらぎ

介護が必要とする方々にやすらぎを提供する愛と結の街、そこにハート型の葉を持つウンベラータに集まるテントウムシとカタツムリを描いたもので、「やすらぎ」と題しました。



旅立ち

看護師となる学生を乗せた船と船首でタクトを振るうパンダ、それを見守るカモノメとトッピーを描いたもので、「旅立ち」と題しました。



要(かなめ)

本部は法人全体のまとめ役であり、それをパリの放射線状の道路を束ねる凱旋門に例え、「要」と題しました。

堂園先生が聖火ランナーに

東京オリンピック聖火リレーで、今村総合病院リハビリテーション科主任部長の堂園浩一朗先生がランナーを務められます。4月27日(火曜日)夕方、鹿児島市役所付近でトーチを受け次ぐ予定です。

聖火ランナーは、各都道府県実行委員会選定メンバーに加え、公式スポンサーによる公募枠があり、堂園先生はスポンサー枠でランナーに選ばれました。鹿児島県では4月27-28日の2日間、実行委選定とスポンサー枠合わせて約200人が聖火を繋ぎます。当日の様子は東京オリンピック公式サイトでライブ映像とハイライト動画が配信されます。

東日本大震災をはじめ、数々の災害を踏まえ「復興五輪」と称される東京オリンピック。堂園先生は2016年の熊本地震の際、日本災害リハビリテーション支援協会(JRAT)の活動として、発災間もなく現地に入り、被災者支援に従事されました。「応募動機に書いたJRAT活動のことが、ランナー選考のきっかけになったかもしれません。聖火リレーでみんなが元気になれば」と抱負を話されています。

聖火リレー

検索



(省略)

編 集 後 記

先日、プロゴルファーの松山英樹が4大メジャーのマスターズトーナメントでみごと優勝しました。東日本大震災直後のマスターズに初出場してから10年で栄光のグリーンジャケットを着ることができました。優勝後のインタビューで「10年前にマスターズに来させてもらって自分が変わることができた。10年が早いか遅いか分からないけど、その時背中を押してくれた人たちに、またいい報告ができるのはよかったです」と話しています。今年度入職した129名の皆さんに、医療従事者、医療人になることを勧めてくれた、手を差し伸べてくれた方がいたら、ぜひ報告と感謝を伝えてみてはいかがでしょうか?

2013年に「慈愛会職員の輪を広げたい」との思いでスタートした「達人(プロフェッショナル)」も、今回で25号をお届けすることができました。理事長先生の巻頭言、慈愛会全施設、職能部門の抱負などなど読み応え十分な内容となっております。

コロナ禍での生活がスタートして、2回目のお花見シーズンも終わり夏に向け、慈愛会学会や東京オリンピックなどイベントも目白押しです。感染対策を行いながら今年度も呑牛之氣で進んできましょう! (丑年だけに)

いづろ今村病院 画像診断科 技師長 脇田 慎一

達人 Professional

慈愛会報[プロフェッショナル]

2021年4月 Vol.25

発行：公益財団法人慈愛会

編集：Professional編集委員会

委員会事務局：慈愛会 企画部 経営企画室

duties-support-room@jiaikai.jp

TEL 099-256-0311 内線2042



公益財団法人 慈愛会

<https://www.jiaikai.or.jp/>